

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スパークスタジオみなみ野 Rainbow Kids			
○保護者評価実施期間	2025年2月5日		～	2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21人	(回答者数)	2人
○従業者評価実施期間	2025年3月8日		～	2025年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月28日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の発達段階に合わせた療育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の特性や同室利用のお子様との組み合わせに留意しながら、基本的に1対1で療育を行っています。</li> <li>・お子様の感覚特性やその日の状態を考慮して、療育内容に反映させています。</li> <li>・お子様の興味や発達段階に合わせた関わりと感覚・感情の表現により、運動遊びを展開していくことで、感覚・感情の発達を支援しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SPARK運動療育の方針やプログラム等について、引き続き、保護者様に理解していただけるように情報発信の機会を増やしていきます。</li> <li>・職員によるモニタリング、ケース会議等を定期的に行いながら、一人ひとりのお子様に対する共通理解を深めていきます。</li> <li>・お子様一人ひとりの興味や課題に沿った玩具・教具の充実を図っていきます。</li> </ul>
2	活動プログラムが固定されないように工夫されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が担当制ではない為、利用しているお子様一人ひとりの発達段階・特性を理解し、多様な視点から、広く支援に関わることができるように取り組んでいます。</li> <li>・慣れ親しんでいる遊びが続いたり、ルーティン化しているものについては、お子様の意思を尊重しながら、新たな興味・関心に触れられるよう、感覚・感情の表現や提示の方法について工夫を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修等の充実を図るとともに、より一層、職員の専門性を高めていきます。</li> <li>・療育内容や支援内容について日々の振り返り、ミーティングでの話し合いの場を設けていきます。</li> <li>・個別支援計画との照らし合わせを定期的に行いながら、実態に即した支援方針、支援内容について検討していきます。</li> </ul>
3	各関係機関と連携し、包括的な支援を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様の状態を踏まえながら、必要に応じて園・学校等の関係機関と連携し、情報を共有しています。</li> <li>・園・学校での困りごと等について、事業所での様子をお伝えしながら、支援内容の擦り合わせを行い、進捗状況を確認しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携に後ろ向きな園・学校等もある為、介入方法を検討しながら少しずつ信頼関係を構築していきます。</li> <li>・連携等に参画できる職員の数、質を高めていくとともに、療育と並行しながら効果を実感していただけるようなフィードバックを重視していきます。</li> <li>・事業所内の掲示、相談時のご案内等、全体に周知を行いながら、ニーズに応じて柔軟に対応していきます。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容の共有や事務連絡等、職員間の積極的な連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の活動プログラムの立案は、各職員の用意が中心となるため、職員の出勤状況、利用時間帯等により、その都度の共有や振り返りが難しい状況があります。</li> <li>・日々の事業所運営の中で、最低限の情報共有は行われているが、毎月の事業所内会議の中で、支援内容の検討や、療育内容についての振り返り等を話し合う機会が少ない状況があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各職員の配置予定について、事前に検討するとともに、共有ツールを使用しながら、見通しを立てることで、定期的な擦り合わせの時間を確保していきます。</li> <li>・職員の意識や知識の向上、発信力を高めるために、毎月の事業所内研修や会議の進行を職員が担当する等、取り組みを図っていきます。</li> <li>・各職員の担当する業務を一定期間で転換することで、各業務への理解及び、周囲との連携を強化していきます。</li> </ul>
2	各種マニュアルや防災に関する取り組みの周知について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種マニュアルを策定し、感染予防、避難場所等、利用者様に必要な情報については、その都度共有しているが、情報提供の仕組み化がされておらず、定期的な発信にはおられません。</li> <li>・お子様の来室時間や職員の配置等の関係により、全てのお子様に対しての定期的な避難訓練の実施が難しい状況があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練の実施状況や児童の実態を踏まえながら、全ての利用者様に防災訓練を実施することが出来るように計画を行います。</li> <li>・防災等のマニュアルについて、利用者様が安心して事業所をご利用いただけるよう、必要な情報を精査した上で、HPやブログを活用しながら定期的に情報提供できるような仕組み化を図っていきます。</li> </ul>
3	ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムの機会について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多機能事業所であることから、発達段階や特性が多様化されており、それぞれの悩み、課題等も異なることから、一律的にペアレントトレーニングを実施する際のニーズの把握とテーマ設定について、検討する必要があります。</li> <li>・ペアレントトレーニング、家族支援に対する専門的知識がある職員が不足している状況があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同士が上手く情報を共有したり、保護者間が関わられるような茶話会・保護者会等の開催を含めたコミュニティ作りから目指していきます。</li> <li>・ペアレントプログラム等のニーズがあるか等、アンケート・聴き取りを実施しながら、必要に応じて提供していきます。</li> <li>・個々の相談・面談等を定期的実施することで、課題に応じた情報提供を行うとともに、外部の研修講師等の活用について検討していきます。</li> </ul>